TVでは絶対に聞けない話がここにある

日本豊受自然農・由井寅子代表がYouTubeに！

豊受のＣＭ、全国に

コロナワクチン52分の動画は見もの

農業法人日本豊受自然農は自然農を静岡県函南と北海道洞爺において行っているが、その活動に目を見張るものがある。農産物販売、農業生産物で自然化粧品、加工品、さらにオーガニックレストランなど幅広く実践している。今度はメディア戦略を立ち上げ、ＣＭも全国に流れることに。さらに進化する日本豊受自然農の動向に注目。

ビル・ゲイツがＷｉｎｄｏｗｓでＯＳを独占するなら、Ｄｏｏｒｓならぬ「豊門」というＯＳの開発を宣言するなど、独創的なアイデアと大胆な行動力に驚かされる、農業法人日本豊受自然農（本社：静岡県函南町）の由井寅子代表。「新型コロナパンデミック」や「米国大統領の不正選挙問題」などでのグローバルメディアやマスコミ、ＳＮＳの情報統制、嘘の垂れ流しに、「メディアが大切な事実を報道しないのであれば…」と昨年から独自の全国オンライン配信システムを立ち上げ全国放送を行い、さらに今年に入ってＹｏｕＴｕｂｅ「寅子先生チャンネル」を立ち上げ、ＹｏｕＴｕｂｅｒとしてもデビューした。さらに毎週のように新作の豊受ＣＭを農場などで制作。２月には、難病に寄り添う家族を追ったテレビドキュメンタリー番組「おひさま家族　～りんくん一家10年の記録」のスポンサーとして、トヨタ自動車、大成建設などの大企業に混じり、由井代表と豊受自然農のスタッフが畑で踊りながら、様々な商品を生み出すＣＭが全国のお茶の間に流れた。日本を、農業を明るくしていくためには、女性の力、そして由井代表のような人物にもっと大暴れしてもらいたいものだ。

注目の動画「コロちゃんトンデモ注射を打ってはいけない!?」

豊受のメルマガより引用。「新型コロちゃんトンデモ注射（新型コロナワクチン）は、昨年12月から欧米で接種が本格化しています。通常、ワクチン開発には、安全性の確認も含め最低でも5年以上かかりますが、それを1年に短縮して本当に安全性に問題はないのでしょうか？ワクチンの役割は本来、人を慢性病にさせて、生きる気力を奪い、寿命を早めるためにあります。ところが新型コロナワクチンは、その徐々に殺すというもくろみが失敗し、打ったそばから世界中でバタバタ人が死ぬという状況になっています。ファイザーやモデルナのｍＲＮＡワクチンを打つとほとんどの人が5年以内に死ぬだろうと言っている人もいます。アストラゼネカのベクターワクチンはｍＲＮＡワクチン以上に危険なワクチンです。実際の海外での接種の状況など含めてメディアでは報道されない新型コロナワクチンの実態を、ＹｏｕＴｕｂｅの寅子先生チャンネルで速報しました。日本でも2月中旬より医療従事者から接種がスタートし、4月からは高齢者の接種がスタートする予定です。」正確な情報開示が不足し不安や憶測が広がっている新型コロナワクチン。自然療法で予防接種の健康被害の臨床研究に20年以上向き合う由井代表独自の見識を織り込んだ52分の動画は見ものである。

ゲノム編集にモノ申す

ＥＵ、厳しい規制がある

この他にも由井代表は、ＹｏｕＴｕｂｅｒとして1月の農水省「改正種苗法」説明会で自然農の農家の立場からの意見を公開したり、秋の国会でも争点になった種苗法改正の問題点を一般の方にもわかりやすく背景を含め解説。さらにゲノム編集にモノ申すの動画も見ごたえがあった。ゲノム編集は未来の日本経済を再生する鍵となる技術ともてはやされる一方で、多くの科学者が自然界への致命的な遺伝子汚染を警告している。どのような健康被害が起こるかも未知数。成長抑制の遺伝子をゲノム編集で破壊した鯛が最先端テクノロジーともてはやされている。養殖業者は儲かるかもしれないが、人間都合で遺伝子をいじくったお魚は果たして食べても安全なのか？

特に懸念されるのは4月から国内企業サナテックシーズ社からゲノム編集　高ギャバトマトの苗の無償配布が計画されている。公表して1週間で3000人以上の応募があったと聞く。もし配布されたゲノム編集トマトがナス科の様々な植物と交配してしまった場合、生態系に取り返しのつかないダメージを与えるリスクが高い。というのも、ゲノム編集技術の性質上、遺伝子の欠落した異常な遺伝子が100％子孫に受け継がれてしまうからだ。また1ヶ所遺伝子配列が変更されると、何百箇所もの遺伝子配列に影響が及ぶとも言われる。果たしてこのような不自然に遺伝子操作をした食べ物を食べても安全なのだろうか。ＥＵなどではゲノム編集食品の流通や一般圃場での栽培にはとても厳しい規制がある。しかし日本政府はその規制を撤廃してしまった。利益・経済優先で規制を浅はかに撤廃しすぎではないか。由井代表は、ゲノム編集作物を食べると染色体異常や免疫過剰反応が生じると警告する。

５Ｇ問題、解決策検討

５Ｇと健康問題勉強会　条例制定の動き活発

「５Ｇと健康問題」加藤やすこをゲストに全国オンライン勉強会企画

「いのち環境ネットワーク」代表で長年、電磁波過敏症の問題に取り組んでこられた加藤やすこ先生と寅子先生を講師に勉強会が開催される。電磁波問題での日本の対応は大変遅れており、将来大きな健康被害が顕在化することが危惧されている。日本でも各地の住民運動や地域での条例制定の動きが活発になっている。寅子先生も５Ｇの問題での解決策も検討しているという。楽しみである。

「５Ｇと健康問題勉強」

1）５Ｇのしくみ、ミリ波の影響

2）日本の規制値の高さと、規制を厳しくする国

3）海外の研究で報告されている健康や環境への影響と対策

4）国内外の反対運動や計画中止させたケース

5）各地の５Ｇ規制条例制定の動き

6　電磁波過敏症などへの健康障害への対策について

「市民はモルモットではない」フレモール・ペルギー環境相

世界ではベルギーのブリュッセルでは５Ｇに対する厳しい規制が導入され、スロベニアは５Ｇ導入禁止、イタリアでも500自治体、アイルランドでも20自治体、イギリスでも10自治体が５Ｇ基地局の設置禁止。スイスも５Ｇ基地局の使用停止を各州に通達。アメリカでは、住宅地にスモールセル基地局を設置しないよう条例で制定する自治体が増えている。

申込みＵＲＬ　https://ec.homoeopathy.ac/　問い合わせ　info@toyouke.com

2月27日（土）10:00～17:30

第11回　日本の農林業と食を考えるシンポジウム

農業は、国を救い、国民を救う！

https://toyouke.com/tokyo2021/

農業は国を救い、国民を救う

2月27日　全国配信イベント開催

由井代表が東日本大震災の被災地を回った際に、真の日本の復興は自然型農業からの六次産業化しかないと気づいたという。以来毎年開催しているシンポジウムも11回目を迎える。新型コロナの緊急事態宣言を逆手に、オンライン配信で開催、会場使用料がかからなくなった為、参加費無料での開催を決断。これで千人規模の方の参加が可能になった。

由井代表自が「農業は、国を救い、国民を救う！～国民が潤い幸せになる【経済】を取り戻すために～」をテーマに基調講演。

一部の人に富が集中する現在な歪んだ経済から、努力すれば皆が幸せになれ、農林水産業を土台とした自給自足型の【経済】のビジョンを講演する。新型コロナパンデミックなどの影響で今後予想される世界経済の大混乱に打ち克つための希望を持てる解決策を期待したい。

由井代表の教え子たちからは、地方へ移住して新たに農業を始めた体験談や動物たちの健康改善への取り組みや豊受自然農スタッフの実践報告も行われる。

一方、コロナ禍での外食産業の窮地は空前の米余りに。政府の無策により米価は生産コスト以下に急落し日本伝統の農家の米作りに赤信号が灯る。

来賓講師には東大農学部の鈴木宣弘教授を迎え「日本の食と農が危ない！－私たちの未来は守れるのか　～命の源の食料とその源の種を守る取り組みを強化しよう～」と今、日本の農業、農家にもっとも緊急な問題を講演する。

来賓発表では伊勢神宮の御神木を伐る杣（そま）である南木曽木材産業社長の柴原薫代表は、「日本の林業の現状と出口戦略」を講演する。

パネルディスカッションには種苗法改正・衆院農水委で参考人質疑を行った印鑰　智哉さんが登壇。日本の食の安全と農業を守る為の解決策を参加者の皆さんと一緒に模索する。